

生息環境づくり部会、地域づくり部会について(報告)

1. JAしまね出雲地区本部における勉強会実施報告

平成29年6月5日、JAしまね出雲地区本部主催の研修会において、斐伊川水系生態系ネットワークの取り組みの紹介と、大型水鳥類を活かしたブランド米による農業活性化に関する講演を実施した。

開催概要

◆日時 平成29年6月5日(月)18:00～19:00

◆会場 JAしまね出雲地区本部 会議室

◆出席者 約130名

◆議題

・講演1「斐伊川水系生態系ネットワークの取り組みについて」

出雲河川事務所 計画課長 小谷哲也

・講演2「大型水鳥類を活かした

ブランド米による農業活性化の可能性」

公益財団法人 日本生態系協会 事務局長 関健志



講演実施風景

◆講演の概要:

最初に、出雲河川事務所より、生態系ネットワークの概略と、斐伊川水系における生態系ネットワークがめざすものや、指標とする5種群の大型水鳥類について紹介した。

次に関氏より、生態系ネットワークの考え方について補足したのち、大型水鳥類と農業との関わり合い、自然を活かした地域活性化について、北海道や宮城県、兵庫県などの、大型水鳥類と共生した農業や地域づくりの先行事例を紹介。さらに、斐伊川水系流域の自然環境の特異性についても触れつつ、自然を守り活かした持続可能な地域づくりの面白さ、地域づくりに向けさらに取り組んでいきたいこと等について、講演を行った。



講演スライド (一部)

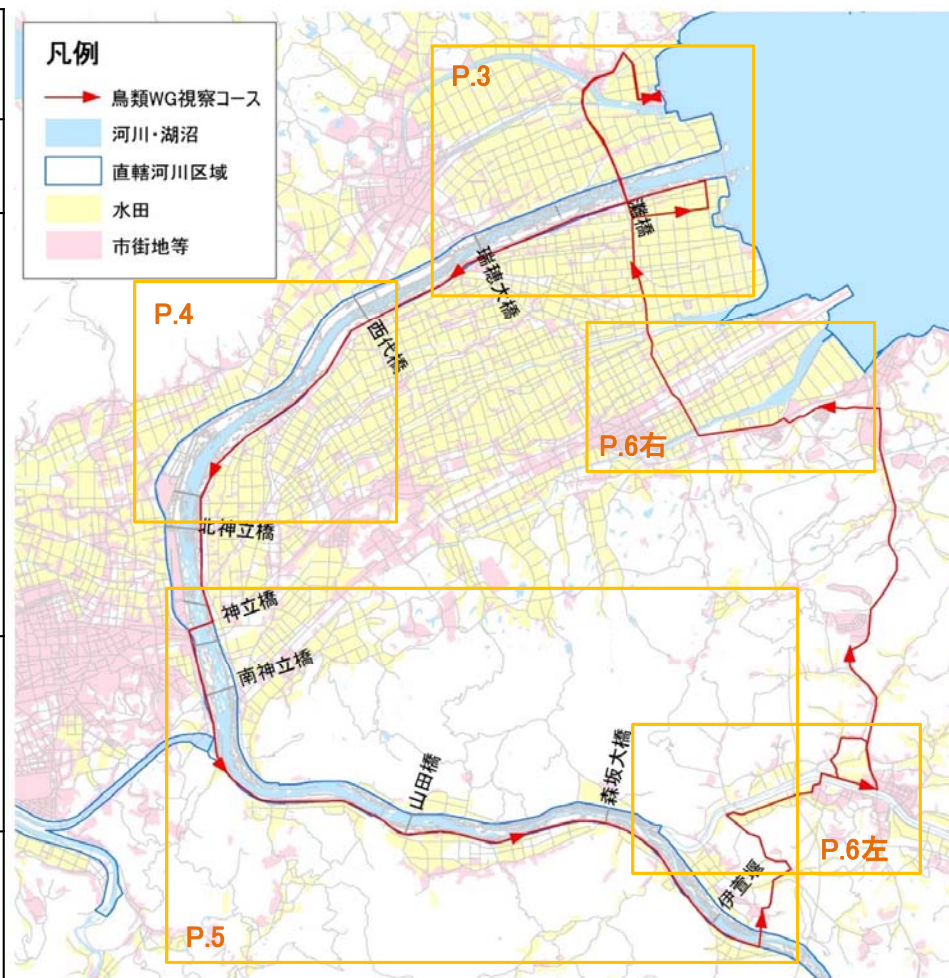
2. 鳥類ワーキング(西部)実施報告

平成30年1月19日、鳥類の専門家等の参加のもと、現地視察と室内でのディスカッションをまじえた鳥類ワーキング(西部)を実施した。

概要

場所	現地視察(斐伊川河口より雲南市加茂町まで、斐伊川本川等を視察) および宍道湖グリーンパーク 会議室		
日時	平成30年1月19日 13:30～17:30		
出席者	専門家	(公財)日本野鳥の会 副会長 日本野鳥の会島根県支部 副支部長 日本野鳥の会島根県支部 副支部長 (公財)ホンザキグリーン財団 事業課長 島根自然保護協会 事務局長	佐藤 仁志 (生息環境づくり部会長) 北脇 努 秦 智秋 森 茂晃 野津 登美子
	オブザーバー	(株)山陰中央新報 出雲総局長	舟越 幹洋 (地域づくり部会長)
		出雲河川事務所 日本生態系協会	
内容	これまでの検討事項の再確認と、今後の保全・整備拠点検討の進め方について		

視察ルート



現地視察

斐伊川河口～瑞穂大橋

農道上で休息するマガンの群れ



右岸より河口および出島地先の視察



空中写真：出雲河川事務所（2014年撮影）



専門家からの指摘事項

- 出島地先への土砂投入によって形成された中州を、マガンやコハクチョウが利用している様子が確認されている。土砂の投入は継続し、もう少し北側に砂州が堆積することが望ましい。
- 今年度に掘削された岸边近くの水路にて、コウノトリの採食行動も確認されている。
- 灘橋より下流のヨシ帯は、ツバメやヨシゴイなどの夏鳥の生息環境を確保するという観点から、現状維持が望ましい。
- 一方、現在ヨシ帯となりつつある河口付近の中州については、植生を取り除くことが望まれる。別途管理の在り方を考える必要がある。
- 水田地帯の道路で休息するマガンの糞を、高病原性鳥インフルエンザ問題を背景に、問題視する声がある。特定の場所への大型水鳥の集中は、今後様々な軋轢の原因になりかねない。
- ツルやコウノトリの採食地となるような湿地環境整備の候補地のひとつとして、瑞穂大橋下流右岸付近が考えられる。高水敷を平常の水位付近まで掘削することは、大型水鳥類のためになると言える。



河口から灘橋までの中州および植生の状況

空中写真：google earth（2016年撮影）

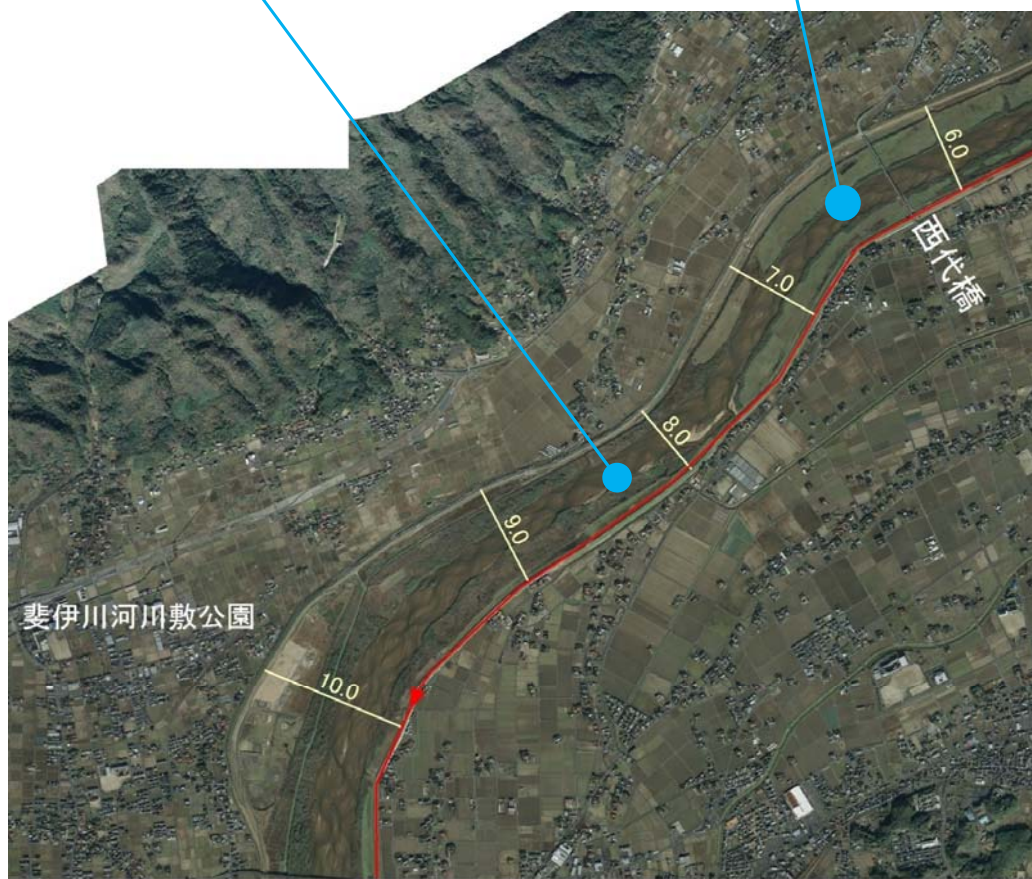
現地視察

西代橋～斐伊川河川敷公園

(8.4km付近)



西代橋から上流、左岸に牧草地が広がる



空中写真: 出雲河川事務所 (2014年撮影)



0 0.5 1 2 km

専門家からの指摘事項

- 西代橋辺りの牧草地は、ヒシクイ採食地としてはあまり利用されなくなったが、河道については、ねぐらとしていまだに重要である。大規模な自然の改変は必要ないが、ねぐら環境や採食環境など、本川内に、生息を安定させる環境をつくるのが望ましい。
- 堤外地のどこかに、ねぐらとして利用できる場所、荒天時の避難場所があった方がよい。出島や河口の環境だけがあれば良いわけではなく、本川の環境整備も重要である。
- 斐伊川河川敷公園や土砂を採取した場所より、もう少し下流部を、荒天時のマガンのねぐらとして保全・整備することを考えても良い。
- 斐伊川河川敷公園の下流(9.6～10km)について、川幅を広げても土砂の堆積作用で元に戻り、維持管理が難しいのであれば、昨年度のワーキング等で提案のあった8.0～9.0km区間の右岸高水敷の掘削が適切ではないか。

2006年



2016年



土砂採取後の植生の遷移状況

空中写真: google earth (左: 2006年撮影、右: 2016年撮影)

現地視察

神立橋～伊萱床止め

専門家からの指摘事項

- 北神立橋から南神立橋の付近で、神戸川と行き来するオオハクチョウが確認されたことがある。
- 伊萱床止めの上流側に見える中州は、植生の除去が望ましい。



2003年



2016年



伊萱床止め上流部の植生の遷移状況

空中写真: google earth (左: 2003年撮影、右: 2016年撮影)



空中写真: 出雲河川事務所 (2014年撮影)



0 0.5 1 2 3 k

現地視察

堤内地における大型水鳥類の確認

雲南市加茂地区



- 水田で採食中のコウノトリを確認した。
- 確認された個体はJ0051、J0118、J0135の3羽であり、いずれも雲南市加茂地区内で確認された。

斐伊川河口周辺



- 斐伊川河口右岸、出雲空港南東の水田にて、コハクチョウの家族群に混ざり採食する、ナベヅルが1羽確認された。

今後の方向性

- 昨年、出島地先において1万立方メートルの土砂投入を実施した。関係者である漁協は、追加の土砂投入について問題ないとの見解を示しているので、事業を継続する予定である。河口付近から灘橋付近までは、現況保全を基本とし、草地化の進む中州などは、植生の除去の実施に向けた検討を行う。
- 灘橋上流から北神立橋の間は、対象種の選定と、必要な事業規模の検討が必要である。
- 整備事業は、対象種別のゾーニングが必要であるか、複数の種が利用可能な環境の整備が適当であるのかを検討する。また、低水敷と高水敷の役割についても再整理を実施する。
- 今後は専門家の意見を仰ぎながら、具体的な整備内容の検討を実施する。堤内で予定されている大規模な圃場整備(国営土地改良事業穴道湖西岸地区)も考慮した検討を予定している。



視察後の会議風景
(穴道湖グリーンパーク会議室)



斐伊川河口の中州における植生
(2016年8月3日撮影)

【斐伊川 出島地区】

斐伊川河口の掘削残土を活用して、
浅場湿地の造成を実施。



【土砂投入状況(H29.6)】



3. 合同部会実施報告

平成30年2月15日、生息環境づくり部会と地域づくり部会の合同形式で会議を実施した。最初に兵庫県農政環境部の西村いつき氏からの特別講演があり、その上で、各出席委員から日ごろの活動報告を受けた。

特別講演

講師：西村いつき氏

演題：「コウノトリと共生する農業への挑戦 ～コウノトリが教えてくれたもの～」

美味しいお米と多様な生きものを育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりに貢献する「コウノトリ育む農法」。西村氏は兵庫県の普及指導員の立場から、同農法の確立とともに、農家に対する普及、支援策を立案し、粘り強く実践してきた。

当日は、決して平坦ではなかったこれまでの道のりや、試行錯誤の中で生まれた気づきを交えながら、地域の実情を踏まえた、生きものと共生する農法の確立・普及の進め方について講演を行った。



西村いつき氏
兵庫県農政環境部農業改良課 参事
兵庫県立大学大学院 客員准教授



講演の様子



講演スライド（一部）

各委員からの活動報告

構成	氏名	所属等	主な報告内容
生息環境づくり部会	佐藤 仁志 (部会長)	(公財)日本野鳥の会	1月19日の鳥類ワーキングの視察に参加し、トキをのぞく4種群の大型水鳥類が比較的身近なところで確認でき、非常に恵まれた豊かな地域であることの再確認ができた。
	森 茂晃 (副部会長)	(公財)ホシザキグリーン財団 ホシザキ野生生物研究所	ホシザキグリーン財団では、宍道湖グリーンパークという野鳥観察のできる観察施設の運営と、島根県立の宍道湖自然館ゴビウスの指定管理等を行っている。

構成	氏名	所属等	主な報告内容
生息環境づくり部会	林 成多	(公財)ホシザキグリーン財団 ホシザキ野生生物研究所	雲南市の西小学校へ講師に呼んでいただき、子どもたちと一緒に田んぼにすむ生きものを調べた。多くの生きものがぐらしており、コウノトリを支えるのに恵まれた環境だと実感できた。
	梶川 勇樹	鳥取大学	下流側については地形の変化を予測した上で、保全・整備を進めていく場所を選定していく必要がある。中上流域は高水敷等の樹林化が進んでいる中、治水と環境保全の両立に配慮していくことが大切だと考える。
	井上 雅仁	自然館サヒメル	島根県の三瓶自然館サヒメルにおいて、近年自然と接する機会が少なくなっている子どもたちをメインターゲットに、自然に接する場づくりのため、展示・普及活動を進めている。
	神谷 要	米子水鳥公園	米子水鳥公園では国際交流として、コウノトリ「げんきくん」が飛んで行った韓国のファポチョン湿地やその周辺との交流事業を行い、先方から子どもたちを招き、逆に日本からも子どもを連れて行った。
地域づくり部会	舟越 幹洋 (部会長)	株式会社 山陰中央新報社	雲南には既にコウノトリがやってきており、早急に環境づくりや地域づくりに取組んでいかなければならないと感じている。今後も多くの主体の協力の下、生態系ネットワーク形成に向けた活動を進めていきたい。
	安喰 哲哉 (副部会長)	株式会社 山陰合同銀行	山陰合同銀行は、圏域の事業者、農業者等のビジネスチャンス拡充という課題に対し、主導的に行政・各支援機関へ連携を働きかけ「株式会社 地域商社とっとり」の設立、出資・人材派遣等の支援を実施した。
	田邊 達也	神門通り甦りの会	斐伊川水系の自然環境を活かした観光振興が鍵となると考え、2月24日に野鳥の観察ツアー(有料)を実施する。平成30年度には出雲観光協会で旅行業の免許を取り、野鳥を含めた地域型の旅行商品を開発したい。
	奥森 隆夫	特定非営利法人 未来守りネットワーク	中海の水質問題を考える上で鍵となる海藻「オゴノリ」の肥料としての活用拡大に取り組んでいる。境港市では学校給食に海藻米を使っていて、さらに海藻農法を用いた野菜についてもオファーがあったところ。

構成	氏名	所属等	主な報告内容
地域づくり部会	松本 真悟	島根大学	奥森委員の活動を科学的見地からサポートしている。島根大学発のベンチャーとして株式会社「なかうみ海藻のめぐみ」を立ち上げ、海藻肥料および農法の一層の普及に取り組んでいる。
	岡田 一夫	農事組合法人 ファーム宇賀荘	無農薬・無化学肥料・冬期湛水の米づくりを続けている。昨年から、圃場の落水時に水生生物が避難できる場所の整備を、協議会と連携して進めている。今年は大雪の日にマナヅルが9羽ほど訪れた。
	田渕 肇	農事組合法人ゆとりの里 下古志ファーム13	無農薬・無化学肥料・冬期湛水の米づくりを続けている。冬期湛水水田には毎年コハクチョウが訪れるが、今年は100羽ほど飛来している。また、秋から冬にかけてはコウノトリも短期間ながら飛来している。



地域の事業者・生産者をサポートする「地域商社とっとり」を設立（安喰委員報告資料）



斐伊川河口の水鳥をテーマに観察会ツアーを開催（企画：一畑トラベル）（田邊委員報告資料）



海藻「オゴノリ」の肥料活用（奥森委員報告資料）



ファーム宇賀荘に訪れたマナヅル（岡田委員報告資料）



合同部会の様子



委員からの活動報告の様子

4. 野鳥観察会ツアー 実施報告

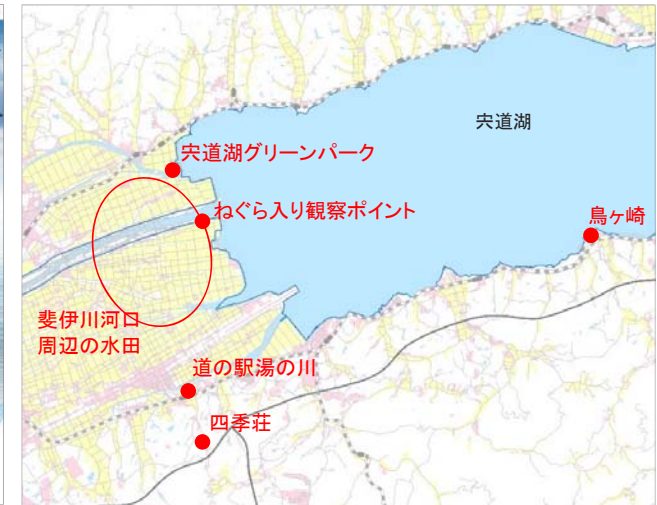
平成30年2月24日、(株)一畑トラベルサービス企画・実施のもと、野鳥観察ツアーを実施した。

開催概要

- ◆名称 野鳥の楽園観察会ツアー
- ◆目的 一般を対象とした着地型旅行の実践
- ◆日時 平成30年2月24日(土) 12:00～19:25
- ◆場所 出雲市 斐伊川河口周辺
- ◆旅行代金 8,900円(税込)
- ◆参加者 13名
- ◆講師 島根自然保護協会 事務局長 野津登美子氏
公益財団法人 日本生態系協会 佐藤伸彦
- ◆旅行企画・実施 株式会社 一畑トラベルサービス
- ◆旅行企画・協力 一般社団法人 出雲観光協会
- ◆特別協力 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥と
共に生きる流域づくり検討協議会
公益財団法人 日本生態系協会



ツアーのチラシ



ツアーの立ち寄り地

当日の行程

【JR出雲市駅】＝【道の駅湯の川】＝【四季荘(旅館)】＝【雲南市加茂町】＝【鳥ヶ崎(宍道湖ふれあいパーク)】
 集合 参加者合流 昼食・事前学習 コウノトリの観察 湖岸散策・宍道湖の水鳥観察
 ＝＝＝【宍道湖グリーンパーク】＝＝＝【斐伊川河口周辺の水田】＝＝＝【道の駅湯の川】＝＝＝【JR出雲市駅】
 展示の見学・野鳥観察 水田の水鳥観察・ねぐら入りの見学 参加者下車 解散



コウノトリを観察する参加者(雲南市)



バスの中からマガンの群れを観察(出雲市)



宍道湖グリーンパークでカモ観察



マガンのねぐら入り(出雲市)